

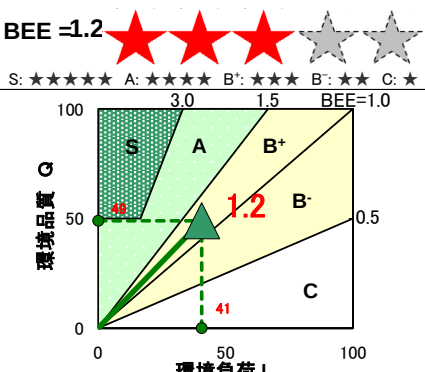
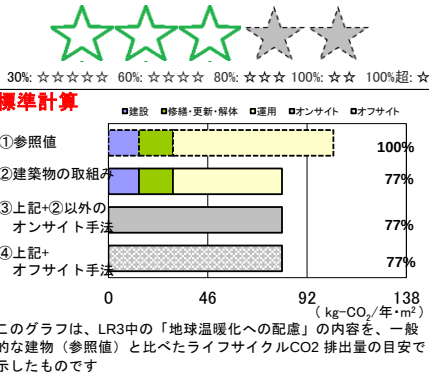
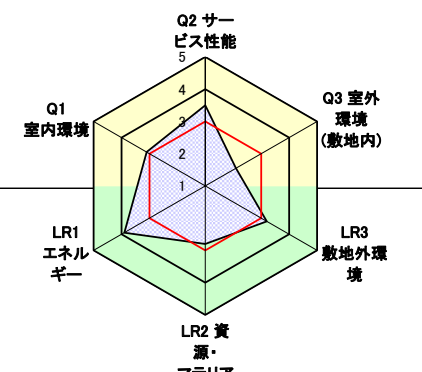
CASBEE® 名古屋

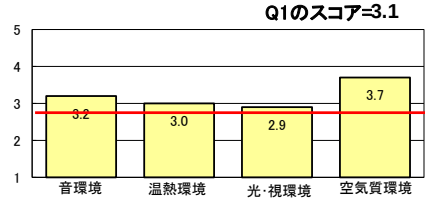
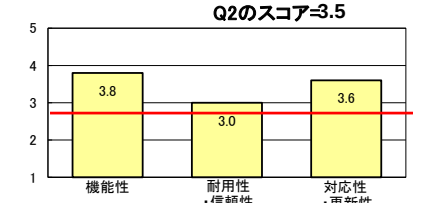
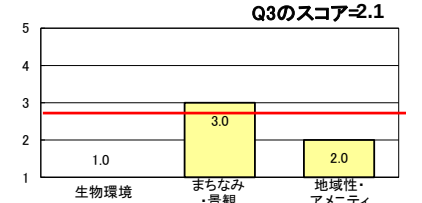
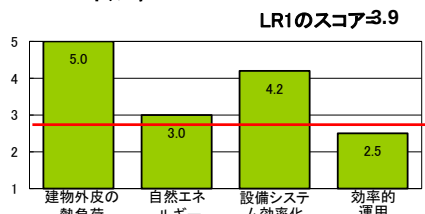
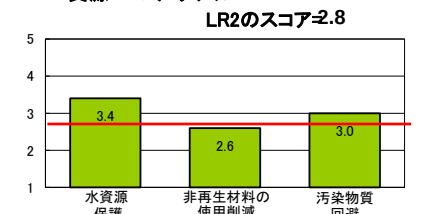
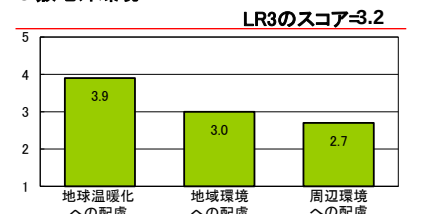
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版、名古屋評価結果表示システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 シイム・シイ 名古屋ベース 新築工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市中区大井町709, 710, 711	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	140 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年4月15日
敷地面積	409 m ²	作成者	
建築面積	330 m ²	確認日	2024年4月15日
延床面積	2,010 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の オンサイト手法 ④上記+ オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 2.9		
Q1 室内環境 Q1のスコア=3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.5 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=2.1 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.3		
LR1 エネルギー LR1のスコア=3.9 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=2.8 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.2 

3 設計上の配慮事項		
総合 建築物内部の環境を高めるためだけでなく、周辺環境に対する影響を抑えるよう計画している。		
Q1 室内環境 内装仕上げはF☆☆☆☆とした。	Q2 サービス性能 すべての事務室の天井高さを2.8mとした。	Q3 室外環境(敷地内) 奇抜な外観色を避けた。
LR1 エネルギー エネルギー消費量に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を採用した。	LR3 敷地外環境 適切な駐車場台数を確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

株式会社 シイエム・シイ 名古屋ベース 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.090838077	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009083808	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045419039	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。